

平成30年9月13日
水管理・国土保全局

平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者が決定！ ～国土交通省関係では、2個人及び8団体が受賞～

平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰[※]の受賞者（9個人、30団体）を内閣府において、決定しました。このうち国土交通省関係は、土砂災害防止活動、豪雨災害に対する水防活動、緊急災害対策活動（TEC-FORCEによる被災自治体支援活動）に著しい功績があったとして、2個人及び8団体が表彰されることになりました。

なお、表彰式の日程等については、内閣府から別途発表があります。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

国土交通省関係の受賞者（2個人及び8団体）

（1）土砂災害防止活動関係・・・1個人及び1団体

[防災体制の整備]

国立大学法人 新潟大学 名誉教授

・ 丸井 英明 まるい ひであき <新潟県>

[災害現場での顕著な防災活動]

（平成29年5月豊後大野市地すべり及び同年7月九州北部豪雨等における災害活動）

・ 特定非営利活動法人 大分県砂防ボランティア協会 <大分県>

（2）水防活動関係・・・1個人及び4団体

[防災思想の普及]

北陸地方防災エキスパート

・ 土田 和男 つちだ かずお <新潟県>

[災害現場での顕著な防災活動]

（平成29年9月台風第18号における消防団の災害出動）

・ 津久見市消防団 つくみし <大分県>

（平成29年10月台風第21号における消防団の災害出動）

・ 名張市消防団 なばりし <三重県>

・ 綾部市消防団 あやべし <京都府>

・ 福知山市消防団 ふくちやまし <京都府>

(3) 緊急災害対策活動関係(TEC-FORCEによる被災自治体支援活動)・・・3団体

[災害現場での顕著な防災活動]

(平成28年熊本地震における災害派遣)

- ・緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE) <内閣府沖縄総合事務局>

(平成29年7月九州北部豪雨における災害派遣)

- ・緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE) <国立研究開発法人土木研究所>
- ・緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE) <国土交通省>

【問い合わせ先】国土交通省 水管理・国土保全局 代表 03-5253-8111

(1) 土砂災害防止活動関係 直通 03-5253-8466

砂防部 砂防計画課 小野、長崎 (内線 36122, 36165)

(2) 水防活動関係 直通 03-5253-8460

河川環境課 水防企画室 白石、富沢、櫻庭 (内線 35452, 35455, 35458)

(3) 緊急災害対策活動関係(TEC-FORCE関係) 直通 03-5253-8461

防災課 災害対策室 伊藤、板橋 (内線 35822, 35824)

功 績 概 要

(1) 土砂災害防止活動関係

個人〔防災体制の整備〕

氏 名	まるい ひであき 丸井 英明
職 業	国立大学法人新潟大学名誉教授
功績の概要	<p>同氏は、砂防学、地すべり学における第一人者として、幅広い知見を踏まえて砂防行政へ有用な提言・指導を行うなど防災分野で多大な貢献をした。</p> <p>日本の近代砂防は、明治以降主にオーストリア国等から技術を導入し、それを礎に独自に発展してきた歴史がある。同氏は、ヨーロッパにおけるハザード・ゾーニング等に関する研究を行い、オーストリア国における連邦森林法（土地利用を制限するため1975年に制定）などを日本へ紹介し、土砂災害のソフト対策を法制化した「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（平成13年制定）の制度設計に多大な貢献をした。この他、地すべりの発生に関して、地形、地質、斜面勾配等に適応した危険度評価手法、融雪による斜面安定度の低下を解析するモデルの開発等を行った。</p> <p>また、新潟県中越地震（平成16年）により発生した土砂災害では、地震発生直後に緊急調査を行い、芋川流域の河道閉塞の緊急・応急対策についての的確な技術的助言を行うとともに、以後、復興まで10年以上にわたり、「芋川河道閉塞対策検討委員会」の委員長などを務め、報告書の取り纏めに尽力し、被災地の土砂災害対策や復興に大きく貢献した。さらに、日本地すべり学会長、社会資本整備審議会計画部会の委員等を歴任する等、その評価は極めて高い。</p>

団体〔災害現場での顕著な防災活動〕

(平成29年5月豊後大野市地すべり及び同年7月九州北部豪雨等における災害活動)

名 称	特定非営利活動法人 大分県砂防ボランティア協会
所在地	大分県大分市
代表者	理事長 池邊 理
功績の概要	<p>平成29年5月に豊後大野市朝地町綿田地区では、最大時間移動量23mmを記録するなど大規模な地すべり災害が発生した。大分県は同協会に周辺地区の危険箇所点検を依頼し、同協会は迅速に現地調査を行った。</p> <p>また、平成29年7月の九州北部豪雨では、日田市を中心に各所で土砂災害が発生した。県からの依頼により、二次災害の恐れがある中、速やかに被災地へ協会員を延べ73名派遣し、急傾斜地崩壊危険箇所等の現地調査を実施し、異常を確認し県に報告した。</p> <p>さらに、平成29年9月の台風第18号では、津久見市や佐伯市を中心に土砂災害が発生した。県からの依頼により、特に被害が大きかった津久見市に延べ33名の協会員を派遣し、緊急点検を実施し、異常を発見し県に報告した。</p> <p>同協会は、このように度重なる災害に対し、現地調査を迅速に行い、その結果は、警戒避難体制の構築などの応急対策等に大いに役立てられ、地域住民の安全確保に大きく貢献した。また、平時においては夏休み等に子供達を対象に砂防堰堤の現地見学会を行うなど砂防の普及啓発にも努めている。</p>

(2) 水防活動関係

個人 [防災思想の普及]

氏名	つちだ かずお 土田 和男
職業	北陸地方防災エキスパート
功績の概要	<p>同氏は、北陸建設振興会議水防技術委員会の初代委員長を平成6年から平成23年まで務めるとともに北陸地方防災エキスパートとして活動し、平成16年7月新潟・福島豪雨、新潟県中越地震の災害復旧支援等に参加した。</p> <p>また、平成27年度から平成28年度に行われた北陸地方整備局水防技術基礎講座の講師として、整備局職員の他、受講生の自治体、消防職員に対し座学や実技指導を行った。</p> <p>さらに、水防専門家としても活躍され、水防工法の中でも技術的に難しい川倉工のエキスパートとして、自ら模型を製作し伝承・普及に取り組んだほか、組み立てが容易な鋼製川倉工を考案するなど水防工法の近代化にも努められており、水防技術の普及に多大な貢献をした。</p>

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(平成29年9月台風第18号における消防団の災害出動)

名称	津久見市消防団
所在地	大分県津久見市
代表者	団長 井上 智稔
功績の概要	<p>同消防団は、平成29年9月17日に大分県を襲った台風第18号の際、延べ1,075名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視や水防活動、住民の避難誘導を行い、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

(平成29年10月台風第21号における消防団の災害出動)

名称	名張市消防団
所在地	三重県名張市
代表者	団長 岩木 政己
功績の概要	<p>同消防団は、平成29年10月22日に三重県を襲った台風第21号の際、2日間にわたり、延べ396名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、水防工法土のう積みにより溢水等による被害を未然に防いだ。この他、住民への避難広報等を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

名称	綾部市消防団
所在地	京都府綾部市
代表者	団長 白波瀬 博之
功績の概要	<p>同消防団は、平成29年10月22日から23日にかけて京都府を襲った台風第21号の影響による集中豪雨に際し、567名が出動し、大雨警報が発令された危険な状況の中、夜間の水防活動を行うとともに、交通の妨げとなる倒木の撤去等を実施し、市民一人の被害も出さずに、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

名 称	福知山市消防団
所在地	京都府福知山市
代表者	団長 池澤 徹
功績の概要	同消防団は、平成29年10月22日から23日にかけて、京都府を襲った台風第21号に際し、2日間にわたり延べ1,040名、車両92台が出動した。暴風と豪雨の降り続く中、昼夜にわたり警戒巡視を行い、道路の倒木の除去、積み土のう約1,000袋による家屋等への浸水防止、住民の避難誘導、浸水地区でのボートを用いた食料の配布、要救助者の救助、孤立地域におけるドクターヘリ搬送の搬送支援活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

(3) 緊急災害対策活動関係

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(平成28年熊本地震における災害派遣)

名 称	内閣府沖縄総合事務局緊急災害対策派遣隊
所在地	沖縄県那覇市
代表者	隊長 内里 清一郎
功績の概要	内閣府沖縄総合事務局緊急災害対策派遣隊は、沖縄総合事務局から21人の緊急災害対策派遣隊を派遣。激甚災害指定に係る所要時間の短縮に貢献した。自治体所管施設の被害状況調査や土砂災害危険箇所の緊急点検、被災建物の応急危険度判定等を実施した。その活動は、被災地の早期復旧に向け大きく貢献するとともに、被災自治体や被災者、地域住民等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著であると認められる。

(平成29年7月九州北部豪雨における災害派遣)

名 称	国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	茨城県つくば市
代表者	隊長 山口 嘉一
功績の概要	国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊は、平成29年九州北部豪雨に対応するために、発災直後から専門家を派遣し、被災堤防や被災橋梁、土砂災害等の復旧に係る高度な技術指導を実施した。その活動は、被災地の早期復旧に向け大きく貢献するとともに被災自治体や被災者、地域住民等から大きな信頼を得ることに繋がった。

名 称	国土交通省緊急災害対策派遣隊
所在地	東京都千代田区
代表者	隊長 安部 宏紀
功績の概要	国土交通省緊急災害対策派遣隊は、平成29年7月の九州北部豪雨に際し、発災当日から1ヶ月以上にわたり活動し、東北から九州地方までの各地からのべ4,083名が出動し、激甚災害指定に係る所要時間の短縮に貢献した自治体所管施設の被害状況調査や土砂災害危険箇所の緊急点検、被災自治体への復旧工法等の企画・提案、孤立解消に向けた24時間体制での道路啓開など市町村支援を実施することにより、被災地の早期復旧に向けて多大なる貢献をした。